

# 日本酪農科学会(JDSA)学会誌「ミルクサイエンス」への投稿の手引

この手引は、日本酪農科学会(JDSA)の学会誌である「ミルクサイエンス」への投稿原稿の執筆のための指針として、投稿規定を補うためのものである。

## 1. 原稿全般について

原稿は、1) 表紙、2) 本文(抄録、緒言、材料および方法、結果、考察、抄録(英文原稿では和文、和文原稿では英語)、謝辞)、3) 引用文献リスト、4) 図表(説明文を含む)とする。表紙を第1頁とし、本文には下端中央部に、通し番号をつける。

## 2. 表紙について(別添例を参照)

和文原稿(原著論文、ノート、総説、資料、ショートレビュー)の表紙部分に和文の表題、著者名および所属機関名(所在地)、次いで英文の表題、著者名、所属機関名(所在地)5つ以内のキーワード(英語と日本語)、責任著者の名前、連絡先(電話、電子メールアドレス、可能であればファックス番号)をつける。著者が複数の場合には、氏名を和文では「・」で区切り所属が複数の場合には、それぞれ氏名の右肩に数字<sup>1</sup>、<sup>2</sup>、<sup>3</sup>・・・等を付して所属と対応させる。また、責任著者には「\*」等を付す。責任著者の氏名(ふりがな)、所属、Tel & Fax 番号およびE-mail アドレスを記入する。

英文原稿には、表紙の部分に英文の表題、著者名、所属機関名(所在地)、5つ以内のキーワード(英語と日本語)、責任著者の名前、連絡先をつける。英文では著者名を「(英数半角)」で区切って記入する。また、末尾に、和文の表題、著者名および所属機関名(所在地)、和文で責任著者名、所属機関名(所在地)、連絡先および和文抄録をつける。

## 3. 表題および著者について(別添例を参照)

表題は、論文内容を的確、かつ、簡潔に表現する。

著者(著者が複数の場合は全員)の所属機関とその所在地は、郵便物が正しく配達される範囲とし、最後に郵便番号を記入する。

## 4. 本文の構成について

### (ア) 原著論文およびノートの場合

和文原稿・・・・・・抄録、緒言、実験材料と方法、結果、考察、謝辞、引用文献、英文抄録(Abstract)の順とする。

英文原稿・・・・・・Abstract, Introduction, Materials and Methods, Results, Discussion, Acknowledgment, References, 和文抄録の順とする。

上記いずれの場合も、「実験方法と結果」あるいは、「結果および考察」のように、合わせて記述してもよい。

### (イ) 総説、ショートレビュー、その他の場合

本文記述は、特にその形式を定めない。

#### (ウ) 節のナンバリングについて

それぞれの節の前にはナンバリングはしない。それぞれの節で分けした場合は、1., 2. などとナンバリングを打つ。更に細かく区分した場合、1-1., 1-2. などとナンバリングを打つ。

#### 5. 英文抄録 (Abstract) について

原著論文、ノート、資料には、250 語以内の英文抄録 (Abstract) をつける。英文の Abstract は、目的、方法、結果、結論の要点を 250 語以内で簡潔明瞭に表現する。和文の抄録と可能な限り同じ意味になるように正確で平易な科学英語で記述する。

#### 6. キーワードについて

J-STAGE での検索機能に必須であるので、日本語および英語で5つ以内のキーワードを必ず記載する。キーワードは、表紙に記載する。

#### 7. 図について

図は1つずつ別葉に作成する。なお、写真は図として取り扱う。

原著論文、ノート、総説、資料の場合、タイトルおよび説明等は、原則として英文表記(和文原稿も)とし、図の内容およびその実験条件等が本文を参照しなくてもわかる程度に適切かつ簡潔に示す。図には、「Fig. 1」, 「Fig. 2」 のように通し番号をつける。英文のタイトルは、最初の文字のみを大文字とし、最後に「.」をつける。図中の語句は、コンピューターまたはレタリングセット等を用いて、出来上がりの縮尺を考慮して作成する。図全体の希望する縮尺については、左下端に鉛筆で記入する。

#### 8. 表について

表は1つずつ別葉に作成する。また、罫線は、横罫線のみ(縦罫線は用いない)で作成する。原著論文、ノート、総説、資料の場合、タイトルおよび説明等は、原則として英文表記(和文原稿も)とし、図の内容およびその実験条件等が本文を参照しなくてもわかる程度に適切かつ簡潔に示す。表の上部には、「Table 1」 のようにアラビア数字で番号をつける。英文のタイトルは、最初の文字のみを大文字とし、最後に「.」をつける。表中の語句は、コンピューターまたはレタリングセット等を用いて、出来上がりの縮尺を考慮して作成する。表全体の希望する縮尺については、左下端に鉛筆で記入する。

#### 9. 引用文献リストについて

引用文献リストは、下記の例にならって作成する。文献の略号は原則として **Chemical Abstract** の規定に従う。

(ア) 欧文雑誌の場合 (スペースを含め全て半角を使用 ; 雑誌の巻号はボルド)、

Hassan, A., Johnson, M.E., and Lucey, J.A. : Changes in the properties of soluble and insoluble calcium during the ripening of Cheddar cheese. *J. Dairy Sci.*, **87**, 854-862 (2004).

(イ) 和文雑誌の場合 (英数字以外の句点や記号は全角を使用 ; 雑誌の巻号はボルド)

長縄貴直・渡邊康一・神崎文次・太田智章・虻川久美子・細野明義・山口高弘 : 組織化学的手法によるチーズならびにバターのタンパク質と脂肪の存在様式とその分布に関する研究. *ミルクサイエンス*, **51**, 33-37 (2002).

(ウ) 和文書籍の場合（英数字以外の句点や記号は全角を使用）

ウ-1) 編集者がいない場合：

足立進・伊藤敏敏：「乳とその加工」，建帛社，pp. 52-70 (1987).

ウ-2) 編集者がいる場合：

浦島匡・福田健二・朝隈貞樹：乳の生合成と泌乳生理，「畜産物利用学」，文永堂出版，齋藤忠夫・根岸晴夫・八田一 編，pp. 1-9, (2011).

(エ) 欧文書籍の場合（スペースを含め全て半角を使用）、

エ-1) 編集者がいない場合：

Robert A., and Barbara G., *How to write and publish a scientific paper*. 6th ed. Greenwood Press, pp. 117-129 (2006).

エ-2) 編集者がいる場合：

Ardö, Y., McSweeney, P.L.H., Magboul, A., Upadhyay, V.K., and Fox, P. F., *Biochemistry of Cheese Ripening: Proteolysis*. In *Cheese chemistry, physics & microbiology*. 4th ed. (eds. McSweeney, P.L.H., Fox, P.F., Cotter, P.D., and Everett, D.W.) Academic Press, pp. 445–482 (2017).

著者が7名以上の場合は、7番目以降の著者を、*et al.* と省略する。

以 上

(2018年5月改訂)

<別添；和文原稿の表紙の例>

**組織化学的手法によるチーズならびにバターのタンパク質と脂肪の  
存在様式とその分布に関する研究**

長縄貴直<sup>1\*</sup>・渡邊康一<sup>2</sup>・神崎文次<sup>1</sup>・太田智章<sup>1</sup>・虻川久美子<sup>1</sup>・細野明義<sup>3</sup>・山口高弘<sup>2</sup>

(<sup>1</sup>日本乳業技術協会, 東京都千代田区九段北 1-14-19 102-0073)

(<sup>2</sup>東北大学大学院農学研究科, 宮城県仙台市青葉区堤通雨宮町 1-1 981-8555)

(<sup>3</sup>信州大学大学院農学研究科, 長野県上伊那郡南箕輪村 8304 399-4598)

**Histochemical Studies on Protein and Fat in Cheese and Butter**

Takanao Naganawa<sup>1\*</sup>, Kouichi Watanabe<sup>2</sup>, Bunji Kanzaki<sup>1</sup>, Tomoaki Ohta<sup>1</sup>,  
Kumiko Abukawa<sup>1</sup>, Akiyoshi Hosono<sup>3</sup>, Takahiro Yamaguchi<sup>2</sup>

(<sup>1</sup>Japan Dairy Technical Association, 1-14-19, Kudan-kita, Chiyoda-ku, Tokyo 102-0073)

(<sup>2</sup>Graduate School of Agricultural Science, Tohoku University, 1-1, Amemiya-cho, Sendai-city, Miyagi  
981-8555)

(<sup>3</sup>Graduate School of Agricultural Science, Shinshu University, 8304, Minamiminowa-mura,  
kamiina-gun, Nagano 399-4598)

キーワード：

広域スペクトル (extended-spectrum),

フーリエ変換赤外線分光分析 (Fourier-transform infrared spectroscopy)

\* 責任著者連絡者

長縄 貴直 (ながなわ たかなお)

日本乳業技術協会

(Tel: 03-3264-1921, Fax: 03-3264-1569, E-mail: info@jdta.or.jp)

<別添；英文原稿の表紙の例>

## **Histochemical Studies on Protein and Fat in Cheese and Butter**

Takanao Naganawa<sup>1\*</sup>, Kouichi Watanabe<sup>2</sup>, Bunji Kanzaki<sup>1</sup>, Tomoaki Ohta<sup>1</sup>,  
Kumiko Abukawa<sup>1</sup>, Akiyoshi Hosono<sup>3</sup>, Takahiro Yamaguchi<sup>2</sup>

(<sup>1</sup>Japan Dairy Technical Association, 1-14-19, Kudan-kita, Chiyoda-ku, Tokyo 102-0073)

(<sup>2</sup>Graduate School of Agricultural Science, Tohoku University, 1-1, Amemiya-cho, Sendai-city, Miyagi  
981-8555)

(<sup>3</sup>Graduate School of Agricultural Science, Shinshu University, 8304, Minamiminowa-mura,  
kamiina-gun, Nagano 399-4598)

### **Key Words :**

extended-spectrum (広域スペクトル),

Fourier-transform infrared spectroscopy (フーリエ変換赤外線分光分析)

\* Corresponding author

Takanao Naganawa

Japan Dairy Technical Association

(Tel: 03-3264-1921, Fax: 03-3264-1569, E-mail: info@jdta.or.jp)